

## 本邦女性における更年期症状：JNHS フォローアップ調査から

群馬大学大学院保健学研究科

林 邦彦

### 【略歴】

1980年 東京大学医学部保健学科卒業  
1980年 山之内製薬株式会社臨床統計部  
1982年 東京大学医学系研究科研究生（疫学）  
1990年 保健学博士号取得（東京大学）  
1990年 ハーバード大学公衆衛生学大学院客員研究員  
1996年 群馬大学医学部保健学科医療基礎学助教授  
1999年 日本ナースヘルス群馬パイロット研究（GNHS）開始  
2001年 群馬大学医学部保健学科医療基礎学教授

2001年 日本ナースヘルス研究（JNHS）全国調査開始

2011年 群馬大学大学院保健学研究科教授

### JNHS の進捗状況

全国の女性看護職 49,927 人を対象に 2001～2007 年に横断的調査を行った日本ナースヘルス研究（Japan Nurses' Health Study, JNHS）であるが、現在は追跡調査への参加同意を書面で得た約 15,000 人の女性を対象に前向きコホート研究を実施している。各対象者の登録時期によってフォローアップ期間は 4 年間から 10 年間と異なるが、これまでの途中辞退者は 3.9%、追跡不能者は 0.8% であり、コホート追跡率としては現時点で 95.3% となっている。総観察期間は、約 117,000 人年（平均観察期間 8.2 年）である。

フォローアップ調査では、各種生活保健習慣の変化を尋ねるとともに、当研究の主要評価項目である疾患での新規発症を調査している。参加登録後 2 年毎に送付しているフォローアップ調査への未回答者には、何度も回答依頼状や記入用調査票を郵送して協力を求めることによって回答率を維持している。転居などで宛先不明となった場合には、同意に基づいて住民票照会を行い、新住所への調査票郵送を行っている。また、毎年全対象者に JNHS ニュースレターを送り、研究の進捗状況や女性の健康に関する新知見の紹介を行っている。

毎回のフォローアップ調査で自己申告された新規発症例について、疾患ごとに JNHS 疾病評価委員が担当を決め、詳細確認調査にて発症例を確定している。フォローアップ期間中の新規発症の確認調査を進めている疾患として、心筋梗塞、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、狭心症、TIA、下肢動脈血栓症、肺血栓塞栓/深部静脈血栓、乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、大腸癌、胃癌、肺癌がある。また、子宮内膜症と子宮筋腫では、ベースライン調査時に既往歴として申告された例も含むすべての発症例について確認調査を行った。糖尿病については、発症申告例だけでなくコホート対象者全員から無作為に確認調査対象を選び出し、申告例での発症の信頼性のみならず、未申告例での未発症の信頼性も検討している。

### フォローアップ調査における更年期症状

JNHS は、女性の各生涯ステージにおける健康管理について疫学的根拠を確立することを目標としているが、特に周閉経期の健康管理は主要課題のひとつである。登録 4 年後調査では、更年期の諸症状について詳しく尋ねる調査票を作成した。また、更年期症状を経験した対象者には、ホルモン補充療法、精神安定剤、漢方薬、心理療法・カウンセリング、サプリメントといった治療法やケア法などについても尋ねた。2012 年春までに回収できた 4 年後調査回答者 11,466 人での更年期症状の様子について、中間報告を行う。